

事業名	富士山学習等推進費		
細事業名	企画展示事業費	財務コード	433206
担当部課室	県民生活 部 私学・科学振興 課 科学技術 担当 (内線)	1554	

調査番号	14
------	----

I 事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度						
実施主体	県(直営)						
目的	<table border="1"> <tr> <td>だれ(何)を対象に</td> <td>その対象をどのような状態にして</td> <td>結果、何に結びつけるのか</td> </tr> <tr> <td>富士山科学研究所を訪れた来館者</td> <td>富士山を取り巻く美しい自然や環境を守っていくことの大切さを理解している</td> <td>富士山を取り巻く自然の美しさや環境の大切さを伝えるとともに、自然や環境保全を意識した生活へと転換する契機とする</td> </tr> </table>	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか	富士山科学研究所を訪れた来館者	富士山を取り巻く美しい自然や環境を守っていくことの大切さを理解している	富士山を取り巻く自然の美しさや環境の大切さを伝えるとともに、自然や環境保全を意識した生活へと転換する契機とする
だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか					
富士山科学研究所を訪れた来館者	富士山を取り巻く美しい自然や環境を守っていくことの大切さを理解している	富士山を取り巻く自然の美しさや環境の大切さを伝えるとともに、自然や環境保全を意識した生活へと転換する契機とする					
内容	山梨の自然写真等展示会 ・山梨の山岳・動植物写真、絵画などの展示会を開催する。 ・展示物は、動物生態研究会、日本野鳥の会等諸団体の協力を得る。 ・展示期間は7週間程度とする。						

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
活動指標	企画展の開催回数	目標	4	6	6	4	3	3
		実績(見込)	6	6	4	3	2	3
		達成率	150.0	100.0	66.7	75.0	66.7	100.0
		達成区分	a	b	c	c	c	b
成果指標	鑑賞者数	目標	13,000	12,900	12,900	8,600	6,450	6,450
		実績(見込)	12,942	9,029	10,863	7,980	7,838	6,450
		達成率	99.6	70.0	84.2	92.8	121.5	100.0
		達成区分	b	c	b	b	a	b
決算(予算) 単位:千円		211	283	267	114	127	127	0

III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

活動指標	c	評価	展示方法や展示動線等を改善・工夫するとともに、ホームページやチラシ・ポスター等を用い、多方面に広報するなどし、意図した成果を十分に上げている。
成果指標	a		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input type="checkbox"/> 必要性が高い <input checked="" type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	来館者の意向や最新の研究成果等を踏まえ、展示内容を充実させていくことにより、成果向上は可能である。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()
その他	説明	
見直しの必要性	有	より多くの県民や来訪者に富士山や山梨県の実情について、わかりやすく伝え、富士山を中心とした豊かな地域環境の保全に一人ひとりが自発的に取り組む思想の普及・高揚を図るため、研究で得られた最新の知見を取り込むなど、展示内容を充実させるための取組が必要である。

V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

廃止	説明	H30年4月に富士山学習の拠点である「富士山サイエンスラボ」がオープンしたことから、富士山サイエンスラボと連携する形で富士山に関連した情報を一体的に発信するとともに、研究員等が撮影した写真等の活用や試験研究概要の掲示など富士山科学研究所ならではの情報を発信することにより展示内容を充実させる。それを踏まえ、季節ごとの写真やパネル等の掲示を中心としてきた本事業は廃止する。
----	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。